

第217号

図書室だより

2025/9/19 発行

16

平和と公正を
すべての人に



目標16:平和と公正をすべての人に

目標10:人や国の不平等をなくそう

10

REDUCED
INEQUALITIES



第二次世界大戦中、ナチス・ドイツによって建設された「**アウシュビッツ強制収容所**」(収容者90%がユダヤ人。現在のポーランド、アウシュビッツに建設)。旧ソビエト連邦軍により解放され、今年1月27日で80年。【アウシュビッツ】って社会の教科書や映画等で、一度は見聞きしたことがあると思います。1979年に世界遺産をなる。収容所の入り口には皮肉にも「働けば自由になれる」と書かれた標語が…。



ユダヤ人(ユダヤ教の信者やその子孫)は、キリスト教徒が多い欧州で長年差別を受けきた。ヒトラーは、その差別感情を政治利用「ドイツの問題はユダヤ人のせいだ」と訴え、1935年ユダヤ人差別の法律を成立、42年にはユダヤ人の**虐殺計画(ホロコースト)**を立てる。約600万人を虐殺、そのうち約110万人が「アウシュビッツ強制収容所」で殺された。そこには欧州各地からユダヤ人を連行。強制労働に向かない乳児・幼児・妊婦・老人・病人は、ガス室送りに。ナチスが劣等とみなした障害者・同性愛者も殺害。別名「**絶滅収容所**」ともよばれた場所。遺体から**金歯・詰め物・毛髪等を略奪**。毛髪からロープやマットレスを作り、売ればばく等の数多くの非人道的な行為が日常的に行われた。第217号を書くにあたり、第二次世界大戦・ナチス政

権・アウシュビッツに関する本を読み込み、資料も調べ、WEBサイトも幾度も検索しました。調べれば調べるほど、事実を知れば知る程、こんなにもオゾマシイ殺戮行為が80年前に本当にあったことなのかと。無残で残虐な行為を人はなぜ平気でできるのか・・・到底信じられません。私自身、得体のしれない恐怖心に襲われました。



☆アウシュビッツの生還者からあなたへ☆

著者のリリアナ氏は、アウシュビッツ・死の収容所での壮絶な日々、ドイツへの数百キロの「死の行進」を奇跡的に生き延びた方です。少女だった当時の壮絶な体験が綴られます。ページをめくり読み進める毎に、とても胸がかきむしられて、重く苦しい・辛い・悲しい・むなし・やりきれない気持ちになりました。本書には、語り部として30年の活動に終止符をうつ決断をした90歳の最終講演(イタリア全土に生中継される)と訳者による単独インタビューも記されています。差別・増悪・分断、無関心がはびこる現代人への警告と憂いと未来への一筋の希望を垣間見ることができる本です。本書は図書室にあります。是非とも、手にとって読んでください。



恩讐を超克すれば光さす

アウシュビッツ解放から今年で80年。ホロコースト「被害者」として世界中から同情の声が寄せられたユダヤの民。第二次大戦後、ユダヤ人の国「イスラエル」が建国された。

今、イスラエルがパレスチナ・ガザ地区に無差別爆撃を繰り返している。破壊され廃墟となった街、血を流し呆然とする負傷者、亡骸を抱きかかえ泣き叫ぶ人々、毎日罪なきガザ地区の住民の多くの命が奪われている。その映像がリアルタイムで目に飛び込んでくる現実のさま。YouTubeでは兵器ドローンが人を殺傷する動画が・・・まるでゲーム感覚で流れてくる。「イスラエルとパレスチナの根深い問題」は、紀元前からの【聖地メッカ】をめぐる宗教・政治紛争が絡み、無宗教といわれる日本人の私には感覚的に理解しにくいと思いました。

人はなぜ、過去から学ばず同じ過ちを繰り返すのか。人とは、なんと愚かな生き物なのかと・・・むなしい感情がツツツと沸き上がってきました。でも、でも、私は不幸の鎖を断ち切る事が出来るのも、やはり人間なのだ信じたい!!

文責:図書部部长 M3-2 N.Y